

資金運用委員会	資料 5
第 37 回 (H29. 3. 29)	

平成28年度答申第 号

答 申 書 (案)

当委員会は、平成28年5月25日付け平成28年度諮問第1号により諮問のあった「厚生年金保険給付組合積立金、退職等年金給付組合積立金及び経過的長期給付組合積立金の安全かつ効率的な運用のあり方」について、下記のとおり答申する。

記

○ 厚生年金保険給付組合積立金（1・2階）に係る基本ポートフォリオの検証について

「厚生年金保険給付組合積立金の管理及び運用に係る基本方針」（平成27年10月1日制定）のⅢの5に基づき、現行の基本ポートフォリオについて、各資産の期待収益率及びリスクを直近の市場環境を踏まえて検証を行った。

その結果、平均的な運用を行った場合①年金財政が予定している積立金（以下「予定積立金」という。）に対する積立比率は25年後及び50年後も100%を維持できること、②想定される運用利回り（賃金上昇率+1.7%）を達成できること、③予定積立金を賄えない確率（下方確率）等の下振れリスクが国内債券100%のポートフォリオより低くなっていることが確認された。

以上の検証の結果、厚生年金保険給付組合積立金の基本ポートフォリオについては問題がない。

平成29年3月29日

資 金 運 用 委 員 会
会 長 宮 井 博

全国市町村職員共済組合連合会
理 事 長 小 谷 隆 亮 様